



〔海の状況 (10/16~11/15) 〕

- ・小川地先の表面水温… 期間中は概ね神子平年並み (平年差±0.5℃) ～はなはだ高め (平年差 1.5℃～) で推移した。(図1)
※神子平年は、1988年～2017年の神子地先の平均値
- ・米ノ地先の表面水温… 10月中は概ね平年よりはなはだ低め (平年差 ～-1.5℃) ～やや高め (平年差 0.5℃～1.0℃) で推移したが、11月中は11/15を除き概ね平年並みで推移した。

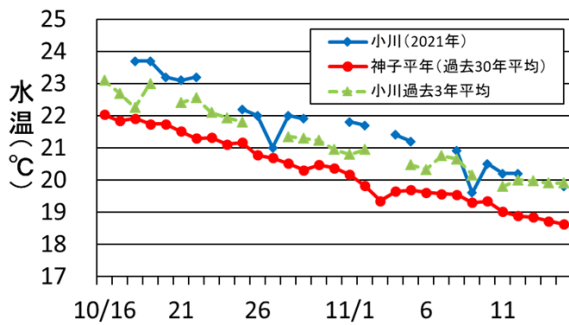


図1 若狭町小川地先における表面水温の推移

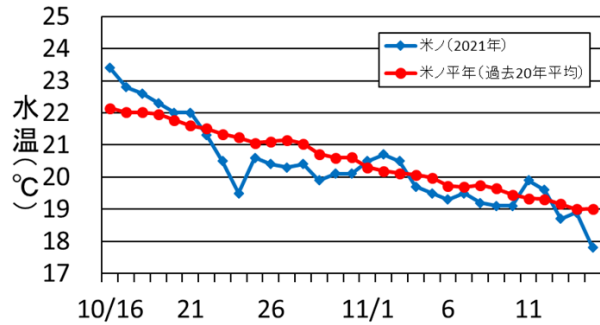


図2 越前町米ノ地先における表面水温の推移

(図2)

※小川過去3年平均は2018年～2020年の小川地先の平均値であり、2年以上の水温データが揃った日のみ取り扱っている。

〔若狭湾および周辺海域の海況：10月〕

10月の若狭湾およびその周辺海域の水温分布は、表層(水深0m)では、若狭湾沿岸で22℃～24℃と前年同様であった。水深50mでは、若狭湾沿岸で20℃～22℃と前年同様であった。水深100mでは、若狭湾沿岸で16℃～18℃と前年同様であった。水深200mでは、若狭湾沖で12℃～14℃の分布が見られなかった。(図3)

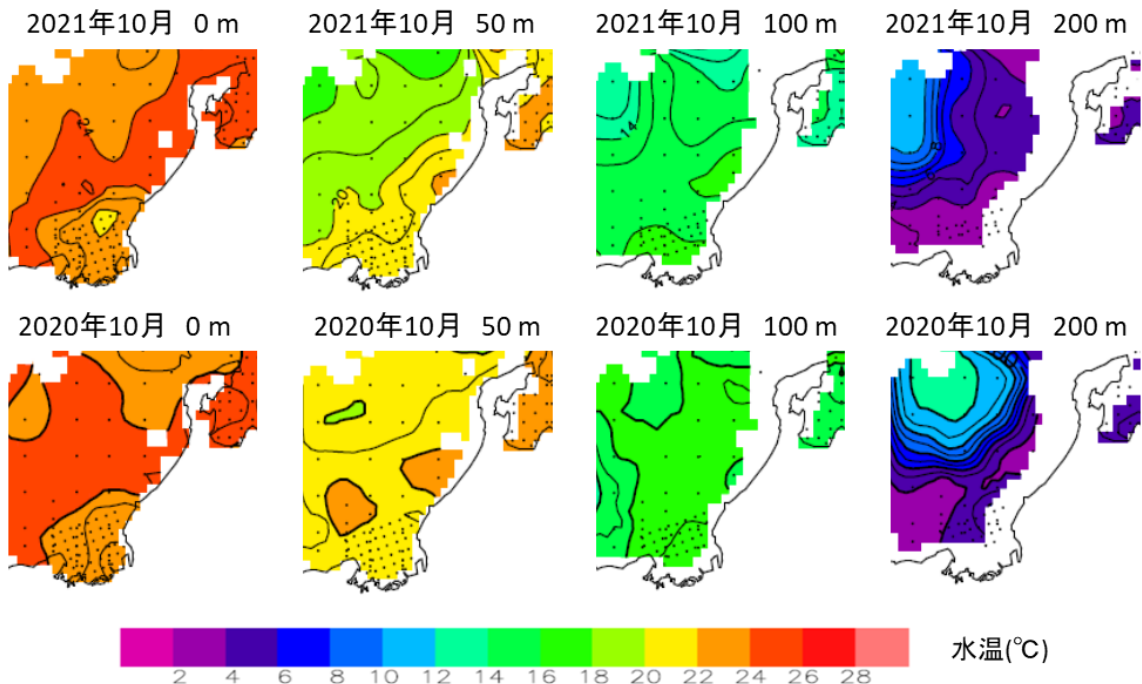


図3 若狭湾およびその周辺海域の水温分布図 (水産研究・教育機構の日本海漁場海況速報より抜粋)

「越前がに」の漁模様

11月6日にズワイガニ漁が解禁となり、15日までの漁獲量をとりまとめましたのでお知らせします。

○漁獲量はズワイガニ(雄ガニ)19 t(前年:39t 対前年比:50%)、セイコガニ(雌ガニ)57 t(前年:87 t 対前年比:66%)とズワイガニおよびセイコガニともに前年を下回りました。

○1 kgあたりの単価はズワイガニ14,124円(前年:9,719円 対前年比:145%)、セイコガニ4,999円(前年:3,365円 対前年比:149%)とズワイガニおよびセイコガニともに前年を上回りました。

漁獲量等のデータ(速報値)は福井県底曳網漁業協会より提供いただきました。(漁業管理グループ 家接 直人)

〔県内の漁模様：10月〕

2021年10月の県内の総漁獲量は714 tで、前年同月を510 t下回った。

〔定置網〕

漁獲量は432 tで、前年同月を467 t下回った。カツオ類、ブリ類(ワラサ銘柄)、ウルメイワシ等は上回ったが、サワラ、ブリ類(ツバス銘柄)、シイラ等は下回った。

〔底びき網〕

漁獲量は248 tで、前年同月を33 t下回った。キダイ、アカガレイ、その他エビは上回ったが、ニギス、カマス、アカエビは下回った。

〔釣り・その他〕

漁獲量は34 tで、前年同月を11 t下回った。サザエ、キダイ、メバル類は上回ったが、ソデイカ、カワハギ類、アマダイ等は下回った。

表. 主要魚種の漁法別漁獲量(10月)

定置網 魚種名	(kg)				
	2021年	2020年	平年	前年差	平年差
ウルメイワシ	1,706	0	1,226	1,706	480
アジ類	12,675	25,358	44,427	-12,683	-31,752
サバ類	4,624	12,035	20,583	-7,411	-15,959
マグロ類	1,500	2,117	1,434	-617	66
カジキ類	3,708	2,916	2,395	792	1,313
カツオ類	11,979	2,145	2,879	9,834	9,099
ブリ 銘柄計	63,251	165,461	151,392	-102,210	-88,142
(ワラサ)	6,203	2,172	4,589	4,031	1,614
(ハマチ)	5,096	6,200	7,224	-1,104	-2,128
(ツバス)	42,014	124,425	122,262	-82,410	-80,247
(アオコ)	9,740	32,454	16,768	-22,714	-7,028
ヒラマサ	3,092	4,855	8,472	-1,763	-5,380
シイラ	109,109	165,771	63,109	-56,663	46,000
サワラ	151,796	423,120	355,064	-271,323	-203,268
マダイ	1,218	1,381	3,652	-164	-2,434
スズキ	1,582	1,656	2,569	-75	-988
カマス	12,182	19,189	13,590	-7,007	-1,408
フグ類	8,241	8,069	6,681	172	1,560
アオリイカ	8,632	13,037	15,041	-4,405	-6,409
その他	36,861	51,672	52,522	-14,811	-15,661
合計	432,156	898,783	745,037	-466,628	-312,881

底びき網 魚種名	(kg)				
	2021年	2020年	平年	前年差	平年差
マダイ	1,709	1,731	3,243	-21	-1,533
キダイ	29,499	20,826	30,841	8,673	-1,341
アマダイ	1,950	1,732	3,656	218	-1,706

底びき網の続き 魚種名	(kg)				
	2021年	2020年	平年	前年差	平年差
アカガレイ	18,310	11,528	54,743	6,782	-36,433
その他カレイ	14,973	14,448	28,389	525	-13,416
カマス	2,959	21,949	10,485	-18,990	-7,526
アナゴ	4,552	5,075	6,993	-523	-2,440
ニギス	13,802	36,411	19,262	-22,610	-5,460
スルメイカ	2,761	2,967	4,498	-206	-1,736
タコ類	4,061	2,407	7,784	1,654	-3,723
アカエビ	85,402	103,905	66,651	-18,503	18,751
その他エビ	7,663	5,843	4,730	1,819	2,933
その他	60,411	51,788	78,901	8,623	-18,490
合計	248,053	280,611	320,174	-32,557	-72,121

釣り、延縄、さし網、その他の漁法 魚種名	(kg)				
	2021年	2020年	平年	前年差	平年差
キダイ	6,263	6,111	7,091	151	-829
アマダイ	4,390	4,914	6,007	-524	-1,617
メバル類	1,253	1,131	2,577	122	-1,324
カワハギ類	2,561	3,708	2,804	-1,146	-243
ソデイカ	744	2,291	6,634	-1,547	-5,890
タコ類	967	1,012	1,575	-45	-608
サザエ	1,943	1,749	1,208	194	735
その他	15,919	24,360	41,311	-8,441	-25,392
合計	34,039	45,276	69,207	-11,237	-35,168

全漁法 魚種名	(kg)				
	2021年	2020年	平年	前年差	平年差
合計	714,248	1,224,670	1,134,418	-510,422	-420,170

※1 平年の値は2011-2020年の10年平均です。 ※2 ()は銘柄、その他カレイはアカガレイ以外のカレイ類、その他エビはアカエビ以外のエビ類です。

※3ズワイガニはオス・メス・水ガニに分けて集計しています。ズワイガニ漁獲量は集計方法の違いにより福井県底曳網漁業協会と異なる場合があります。

※4 ニギスの平年値は2015-2020年の6年平均です ※5 カワハギ類(カワハギ、ウマヅラハギ、ウスバハギ)、サザエの平年値は2014-2020年の7年平均です。

※6 数値は小数点以下を四捨五入しています。

〔近隣府県の漁模様〕

(漁獲状況…石川県：10月の定置網1日あたりの漁獲量。京都府：10月にJF京都漁連舞鶴地方卸売市場へ水揚げされた定置網1日あたりの漁獲量。兵庫県：10月の余部定置網1日あたりの漁獲量。鳥取県：10月中旬～11月上旬のまき網1統あたりの漁獲量。)

石川県…定置網…サワラ類5.1 t、シイラ3.3 t、マアジ2.7 t、フクラギ・コソクラ1.4 t、ソウダガツオ0.8 t

京都府…定置網…サワラ類9.8 t、シイラ4.2 t、カツオ類2.6 t、ツバス1.7 t、アカカマス1.4 t、マアジ1.0 t

兵庫県…定置網…ウルメイワシ85 kg、マサバ75 kg、アジ54 kg、ツバス38 kg、サワラ35 kg、マイワシ26 kg

鳥取県…まき網…マアジ6.9 t、マアジ5.4 t、ブリ類5.1 t、ウルメイワシ2.9 t、マイワシ2.2 t

(漁場環境グループ 長島 拓也)

マダイ種苗生産について

栽培漁業センターでは、漁家民宿用養殖種苗生産事業としてマダイの種苗生産を行っています。栽培漁業センターでのマダイの種苗生産は昭和 51 年に試験的に行った後、昭和 52 年から放流技術開発事業として本格的にスタートしました。その後、音響馴致による飼付け放流試験として種苗生産を行い、平成 15 年以降は種苗生産を休止しました。

平成 23 年に体験漁業を中心とした漁業地域の事業に活用するためマダイ種苗の需要が高まったことを背景に種苗生産が再開され現在に至っています。今回は、魚類種苗生産の草分けとして栽培センター設立（昭和 50 年）間もない頃から今も続くマダイの種苗生産について紹介します。

現在のマダイ種苗生産は、5 月末頃、隣県から受精卵を譲り受け、栽培漁業センターでふ化させてスタートします。マダイの受精卵は直径 1 mm 程度、透明ですがネットなどで集めると淡いピンク色に見え大変きれいです。おおよそ 2 日でふ化し、全長 2.2 mm 位のふ化仔魚が生まれます。さらに 2 日ほど経つと口が開き摂餌ようになります。

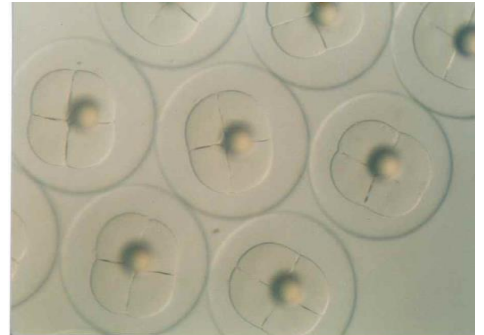
餌料系列はシオミズツボムシ、アルテミア幼生、配合飼料と魚類の種苗生産にあっては標準的なものです。

マダイをはじめ魚類の種苗生産では、一般的に開鰾（かいひょう うきぶくろ鰾に空気が入り膨らんで浮袋として機能すること）を促進させるため、水表面から空気を取り込ませます。このため、空気を取り込み易いように専用の道具を用いて飼育水表面の油膜を除去します。少し余談になりますが、効率的に油膜を除去する方法は平成の初期には未解決の課題でした。そこで、当時マダイ種苗生産に関わっていた栽培漁業センターの職員があちらこちらを視察し、ある機関で油膜を除去する専用の道具を見つけノウハウとともに持ち帰ったということです。

採卵してから約 40 日で全長約 25 mm に達し、この時点で分槽を行っています。密度を適正に管理・調整して飼育することにより、成長はより進み分槽後約 30 日で全長 50 mm の出荷サイズに到達します。

こうして 5 月末の採卵から約 70 日で体験漁業を運営する小浜市内の体験民宿団体に出荷します。出荷された稚魚は生簀で育てられ、県内外から来る小中学校を中心とした体験漁業に活用されます。

栽培漁業センターでマダイ種苗生産が始まってから半世紀近くが経ちますが、種苗を活用する形態は変化してもやはりマダイは欠くことのできない魚だと感じています。今後も浜に喜ばれる種苗づくりを進めていきたいと考えています。



受精卵



ふ化仔魚



ふ化後、約 10 日(鰾の形成はじめ)

(栽培漁業センター所長 矢野 由晶)